

# 姉妹都市千代田区の魅力発見！ プレゼントキャンペーンを実施します

町は姉妹都市である東京都千代田区とこれまでさまざまな連携事業を行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、交流事業の中止が続いています。

そこで、今年度は姉妹都市千代田区のことを学び、

## 千代田区とは？



都心の魅力にあふれ、文化と伝統が息づくまち

東京都千代田区は、日本の政治や経済、文化の中心としての役割を果たし、発展してきたまちです。皇居や、立法・行政・司法の三権の主要機関が集まっているほか、ビジネス街、古書店街、スポーツ店街など他に例のない多様で特徴ある街並みが形成されています。

お問い合わせ 町まちづくり課 (☎852・5361)

クイズやアンケートに答えて、抽選で千代田区自慢の賞品が当たるキャンペーンを行います。クイズやアンケート内容など詳しくは町ホームページをご覧ください（右のQRコードからもアクセスできます）。



## 賞品

A賞 千代田区の魅力詰め合わせ3点セット（3名様）

- 入浴剤「千鳥の恵みシリーズ」セット
- 江戸城古地図ミニタオル
- 千代田区限定！リラックマグッズ



B賞 千代田区観光大使  
リラックマふせん（30名様）



## 薪ストーブのお話

我が家が暖を取る手段は薪ストーブです。東京に住んでいるときは、薪ストーブは旅行先のロッジで出会ったり、テレビでちょっとお洒落な家の人が使っている「特別なもの」で、自分が薪ストーブと共に生活を共にするとは思っていませんでしたが、今となっては必需品だし、どの暖房器具よりも好きです。乾燥しないし、お鍋は煮込めるし、洗濯物も良く乾かし。朝は、（主に夫が）極寒のなか火をつけ（てくれ）るところから始まるわけですが、ゴーゴーと空気を引き込む音や、パチパチと音を出して燃える音が心地良いですよ。



先日、外で人に会った時「燻されたにおいがするね」と言われました（笑）1月に生まれた我が子は正真正銘秋田生まれ秋田育ちで、生まれたときから燻され続けているので、いぶりがかっこ一緒ですね。早いもので子どもが生まれてからもう2か月が経とうとしています。むくむくしてきました（写真参照）。それでもまだ筋力の弱い我が子、浣腸をしないと排泄ができないことも多いのですが（お食事中に読まれている方が居たら失礼します……）、勢いの良い音と共に自力でのソレを確認できたときはかなり嬉しいものです。他人の排泄をこんなにも喜ぶことが今までであったでしょうか（笑）。1か月を超えてから沢山の方に抱っこして愛でいただき、幸せです。首が座る春ごろには、背負いながら早速の森山登山デビューしたいなあ。

## 集落支援員を募集します

町では、令和元年度から「コミュニティ生活圏形成事業」に取り組んでいます。人口減少や少子高齢化が進む中、町内会の枠を超えて地区単位でのまとまりを強化し、暮らしやすい地域づくり、新たなにぎわいの創出などを目指すものです。

この事業を推進するため、住民主体の地域づくりをサポートする「集落支援員」を募集します。

▶募集内容 集落支援員……………1人

▶活動内容 コミュニティ生活圏形成事業における地域活動の支援（集落状況の把握、地域の巡回、地域づくりのための話し合いの開催・進行など）

- ▶応募資格
- 五城目町に住居がある方
  - 地域コミュニティ活動の経験があり、地域活性化に意欲のある方
  - パソコンの操作（ワード、メール、SNSなど）ができる方

▶任用期間 4月1日から令和5年3月31日まで

▶報償費 月額208,300円（週5日活動・雇用契約なし）

▶活動地域 五城目町内（全域）

▶申し込み 3月7日（月）まで、町役場3階まちづくり課へ必要書類を持参または郵送

※応募資格や待遇などの詳細は町ホームページまたは町まちづくり課まで。

お問い合わせ 町まちづくり課(☎852・5361)

## ふるさとを思う

佐藤 義光（大川出身・71歳・東京都練馬区在住）



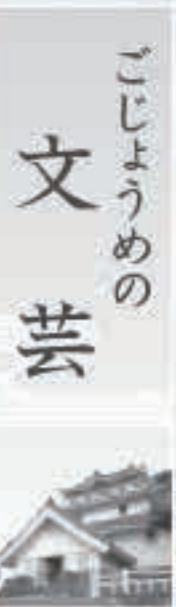
小学校当時の懐かしい写真。後列中央右が私です。

大川の実家は父の弟が引き継ぎ、現在は従弟が住んでいますので谷地中とは今でも深い繋がりがありません。

高校卒業後は、家族に見送られながら上京しました。姉が目一杯の涙をためながら見送ってくれた当時は今でも思い出します。翌年には、情報処理専門学校に入学し、卒業後は希望していた情報処理関連の業界で定年退職する60歳まで勤めることができました。営業職が長く、同郷秋田のお客様には色々な面で可愛い

五城目町の皆さん、ふるさと五城目会の皆さん、この度新規会員として加入した佐藤です。どうぞ宜しくお願いします。私は大川の谷地中で生まれました。父親の仕事の関係で秋田市内に引っ越しましたが、小学校5年生までの11年間、五城目町に住んでいました。母なる山「森山」、清き水流れる「馬場目川」、毎日のように遊んだ当時は思い出されます。私の心には一番思い出のある土地です。

定年退職後は、非常勤で介護施設のデイサービスの送迎運転手をしております。本年で11年になります。健康で働ける喜びを感じております。この仕事を通じて、介護で疲弊されている方、独居で苦労されている方、認知症の家族を介護されている方々など数多くの方とお会いしました。人生100年時代。日本は今、超高齢化社会の様々な問題が山積しております。ふるさと五城目町にも同じことがいえるのではないのでしょうか。介護を受けることなく、健康寿命を伸ばすにはどのような対策が必要か考えてほしいというも願っています。



一 俳句	一 短歌
菜の花や食するも良し見るも良し	声あげて立ち上がりたり大寒の朝の雪をまず私はむと
茗茶食べ物忘れするかと著を止め	雪解けの軒垂れくぼみに落ちる音
古雛や我家の歴史延々と	庭の雪消え春めく今朝は
雉鳴くや朝市に人呼ぶ如く	新春の「日本の芸能」堪能し
一 川柳	歌舞伎の華麗と迫力を知る
風船に吹くほつたに見る未来	西磯ノ目
使う色決めて未来の絵を描く	岡本
窓際の花にも愛は降り注ぐ	大石
下り坂支えてくれる手が温かい	小玉
畑町	三浦 春水
新畑町	大原美どり
長町	荒川 一滴
昭辰町	平川のぶ子
八郎瀧町	北嶋美保子
本間 富子	三浦テツ子
村上ハツ子	村ハツ子
小正	小正